

全国中心市街地活性化 まちづくり連絡会議 第4回勉強会 in こうべ

平成21年2月19～20日、「全国中心市街地活性化まちづくり連絡会議 第4回 勉強会」が神戸市で開催されました。



今回の勉強会には、21社、34名(賛助会員等 含め総勢66名)の方々にご参加いただき、活発な意見交換が行われました。(H 20.12時点の会員数:69社)



《第1日目》

第1日目は、震災復興後に再開発事業により整備された「神戸アスタ新長田4番館」にある「新長田まちづくり(株)」の会議室等をお借りして、本会議および分科会が行われました。

はじめに、「(株)まちづくりとやま」の廣瀬会長から、富山市における「エコリンク」の取り組みについてのお話を交えながら、ご挨拶をいただきました。



次に開催地の挨拶として、伊藤都市計画総局長より、「KOBE鉄人PROJECT」の取り組みのご紹介を含めたご挨拶をいただきました。

続いて来賓として、国土交通省都市・地域整備局 まちづくり推進課 澁谷企画専門官よりご挨拶をいただき、引き続き国土交通省の取り組みについてご説明をいただきました。



■基調講演

お三方のご挨拶の後、「(株)コー・プラン」の上山代表より基調講演をいただきました。

基調講演につきましては、「神戸におけるまちづくり」と題し、阪神淡路大震災以前から神戸市のまちづくりに関わってこられた経験をもとに、パワーポイントと年表を使って、神戸市における都市計画および民間組織も巻き込んだまちづくりの取り組みについて、ご説明いただきました。



神戸のまちづくりは、約30年前の“始動期”以降、“発展期”、“復興まちづくり期”、“展開期”の計4期に分けられるとのこと。かつては官主導でじっくりとまちづくりに取り組んでこられましたが、震災を契機として、計画から実践への速度が一気に加速したこと、各地区レベルで、様々な主体によるまちづくりが活発になったことなどを、幾つかの視点からわかり易く解説していただきました。

■分科会

以下の3つのテーマについて、各班約20名ずつに分かれてご討議いただきました。

〈第1分科会〉

テーマ: エリアマネジメント、まちづくり会社における管理・運営
コーディネーター: (株)コー・プラン 上山氏

- ・エリアマネジメントは地域に応じた多様な考え方があってよいのでは。まちづくり会社相互の積極的な情報交換は重要。
- ・人材が重要であるが、商店街の理事長などのなり手がいない。
- ・地域にしがらみのない人材も必要。
- ・情報を共有するシステムを作って、その中から自分たちに合ったものをチョイスする必要がある。



〈第2分科会〉

テーマ: 情報・ネットワークを活用したまちづくり
コーディネーター: ひょうご・まち・くらし研究所 山口氏

- ・ラジオ放送の活用事例(岐阜・長浜



等)の紹介

- ・HPやタウン誌を活用した多様な情報発信(大阪駒川商店街)
 - ・メイドインアマガサキ(尼崎)の取り組み紹介
 - ・屋台村のチャレンジショップ(富山)について
- 〈第3分科会〉

テーマ: まちなか産業の活性化と起業家支援

コーディネーター: 協働研究所 与那嶺氏

- ・ハード整備を行ったが、床をどう埋めるかが課題
- ・まちとしてハードはしっかりしているが、多方面との連携がないので、地元を活かした取り組みを行いたい。
- ・インキュベーションに入ることにより、その周辺にも拠点が形成され、徐々にまちが活性化するのでは。



■交流会

分科会終了後、「琉球ワールド」に会場を移して交流会が行われました。

交流会の冒頭に、分科会のコーディネーターから、熱心な討議の紹介と併せてショートコメントをいただきました。

引き続き、「新長田まちづくり(株)」の宍田社長から開会のご挨拶をいただき、国土交通省の澁谷企画専門官から乾杯のご発声がありました。

最後は「(株)神戸ながたTMO」の上田社長の中締めで閉会となりました。



《第2日目》

第2日目は、まず、前日と同じ「神戸アスタ新長田4番館」内の「新長田まちづくり(株)」の会議室において、神戸市から、新長田地区における復興まちづくりの取組みについての説明後、「新長田まちづくり(株)」から、まちづくり会社の取組み状況の説明と地区周辺をご案内いただきました。

その後、「新開地地区」に移動し、新開地地区におけるまちづくりの取組みについて説明を受けました。

■新長田地区の復興まちづくり

神戸市都市計画総局の谷中係長から、再開発・区画整理・その他の3地区において、新長田地区の復興まちづくりが進められてきた旨の説明がありました。

■「新長田まちづくり(株)」の取組み

昨年、設立10周年を迎えた「新長田まちづくり(株)」の宍田社長から、この10年間の取組み経緯をまとめたビデオを使った説明がありました。

その後、地区一帯をご案内いただきました。



〈再開発地区〉

建物1階に「KOBELCO鉄人PROJECT」のロゴ入り自動販売機が目を引きます。

「鉄人28号」の作者、故横山光輝氏(神戸出身)に因み、等身大(H=18m)のモニュメントを新長田駅前設置しようというプロジェクト。飲料メーカーとタイアップして、プロジェクトの広告・宣伝を兼ねて、この自動販売機を新長田界隈に置いてあるそうです。

建物の外に出ると、賑わいのある表通りと対照的に、裏通りにはまだ空地があります。震災から10年以上経ちますが、再開発事業が道半ばであることが窺われます。

〈その他地区〉

新長田の再開発地区に隣接して、震災を免れた“その他地区”があります。手動開閉式のアーケードがある昔ながらの商店街が、再開発ビル群の傍らに残っていました。

通りの縦横に展開する商店街の一部に空き店舗が見られ、そこではチャレンジショップの試みや空地を活用したイベント広場といった取組みが行われていました。

〈区画整理地区〉

再開発地区の高層ビルとは対照的に、低層の建物が並ぶ区画整理地区。“てづくり工房”は、“くつのまち”として、かつてケミカルシューズで栄えていた頃の新長田を偲ばせる施設です(入場無料)。



■新開地地区のまちづくり

新長田地区の説明と現地視察後、地下鉄にて新開地地区に移動。

駅前アーケードの入口にある「新開地まちづくりスクエア」において、「新開地まちづくりNPO」の古田氏から、新開地におけるまちづくりの取組みの説明を受けました。

〈新開地まちづくりの主な取組み〉

- ・情報発信(ミニコミ誌・マップ等)
 - ・女性限定の映画上映会
 - ・「ザ・シンカイチツアー」の実施
- ハードありきではなくソフトから、特に地域の情報発信に力を入れた、独自の視点でのまちづくりへの取組み姿勢が印象的でした。

今後の展開として、

- ・駅からのアクセス改善
- ・公園・駅の環境改善
- ・店舗集積(商業再生)

といった、ハード整備が課題とのことでした。

■さいごに

今回、開催地としての準備、会場のご提供並びにご講演等をお引き受け下さった地元の方々におかれましては、ご多用中のところ多大なるご協力をいただきまして、誠にありがとうございました。

次回は、第3回総会を本年5月ないし6月頃に、東京にて開催する予定です。

詳細が確定次第ご案内いたしますので、今回と同様多くの会員の皆様のご参加をお待ちしております。

全国中心市街地活性化まちづくり連絡会議事務局

独立行政法人都市再生機構、財団法人民間都市開発推進機構
社団法人全国市街地再開発協会、財団法人区画整理促進機構

作成/平成21年3月

